

会 議 名	第5回港区幼稚園教育振興検討会
開 催 日 時	令和7年9月17日（水）17時30分～19時
開 催 場 所	港区役所9階 912・913会議室
委 員	A委員（委員長）、B委員（副委員長）、C委員、D委員、E委員、F委員、G委員、H委員、I委員、K委員、L委員
欠 席	J委員
事 務 局	教育推進部長、教育推進部教育長室長、教育推進部教育長室教育推進担当係長、学校教育部学務課長、学校教育部学務課学校計画担当係長
傍聴者	1人
会 議 次 第	1 港区幼稚園教育振興検討会報告書（案）について 2 その他
配 布 資 料	資料1 港区幼稚園教育振興検討会委員名簿 資料2 港区幼稚園教育振興検討会報告書（案）
主要な意見等	
G委員	1 港区幼稚園教育振興検討会報告書（案）について ○資料2を用いて事務局から説明し、各委員から補足等について発言。 様々な立場の人が意見をする中で、偏りなく相反する意見も忖度なく記載されていたように感じ、信頼が持てると感じた。改めて子どもたちを真ん中に置いて、子どもたちの利益を最優先に考えるといった、私立幼稚園長先生方のご意見に強く賛同する。幼稚園は幼稚園としての強みを生かしながら、各園がそれぞれ揺るぎない信頼や理念の上で唯一無二の教育を続けてほしいと感じている。そのための教員の確保などについて区に支えていただけると、保護者としては非常に心強く感じる部分でもある。預かり保育の議論については、果たして当事者である子どもにとっての利益、子どもたちはどのように感じているのだろうかとか、子どもの幸福ってどうだろうということが何度も出てきていたと思う。私たち大人が目先のことにとらわれすぎず、早期教育などの耳障りのいいサービスを受けることに慣れることなく、子どもの生きる力を育むための土台は何なのか、土台を作るためにはどんな環境が望ましいのか、どんな教育が適しているのかというのを私たち親が学べる機会や場所があれば、おのずと幼稚園が選ばれ続けていくのではないかと思った。前回会議で、私立幼稚園のPTAが主催している講演会のオンライン公開の可能性についてもお話ししたが、半年前ぐらい

H 委員	前の講演会にご登壇いただいた先生が、日本が誇れる教育は幼稚園と学校の部活動だとおっしゃっていたのがすごく印象的だった。そういった今しかないこの幼稚園教育というのを、今後もたくさんの方に受けていただきたいと強く感じた。 今回の報告書に載っているものが全て実現されたならば、本当に港区の幼稚園は先も明るく、子どもたちが成長していく幅もまだまだ大きく広がっていくのではないかなと思う。報告書に記載のないことで言うと、やはり幼稚園は保育園など他施設と比べて補助が少ないと感じる。通わせている保護者側から見ても、保育園は完全に無償化していて、無料で子どもを預けられるような形になっているが、幼稚園は多少補助があったとしても、完全無償化というほどにまではいかない。親が子どもをどの施設に入れようかと考えたときに、お金がかからない方がいいという思考も少しは働くと思うので、それが幼稚園が選ばれにくくなる懸念につながると思う。港区が率先して港区の幼稚園に対しての補助などで保育園と同様に全て無償化し、子どもたちを預けられるようにできるかどうか、大きな課題になってくるのではと思っている。もちろん親もお金を出し渋るということではないが、そこが最初のネックになってくるのではと思う。全ての子どもたちに幼児教育を受けてほしいと私は思っていて、幼稚園で行っているような遊びを大事にして子どもたちの気持ち一つ一つを丁寧に紡いでいくような保育、教育を受けてほしいと思っている。幼稚園でやっている教育内容なども、幼保連携を実践していく中で保育園の方にも広げていくような場もあるといいのではないかなと感じている。
I 委員	報告書に関しては前回までに発言した内容をととてもわかりやすくまとめていただいていると感じており、感謝している。今回私がこちらに参加して、幼稚園の先生方の熱量や考え方というのを初めて肌で感じる事ができた。報告書の内容もすごく充実して、綺麗にまとめていただいているが、これが果たして本当にいろんな方に伝わるかということを考えている。さまざま課題はあるかとは思いますが、現状でも幼稚園では素晴らしい教育を実践しているということが、広く伝わっていないことを、この検討会に参加して強く感じた。個人的には、幼稚園の先生方が検討会で発言された、幼稚園での教育にかける思いを、それこそ YouTube など流したほうがいろいろ伝わることもあるのではと思うぐらい。幼稚園で思いを込めてやっていることや考えとか、そういったことが伝わる会だったと思う。なので、報告書の中にも書いてあったが、いろんな方に幼稚園の魅力が伝わるように、なっていったほしいと思っている。そのために行政に情報発信のためのプラットフォームや、そういった部分の整備に力を入れていただきたかった。
K 委員	今回検討会に参加をし、幼稚園の魅力やその役割について委員の皆様と共有し、報告書にさまざまな意見を盛り込めたことが本当に良かったと考えている。幼稚園をより多くの方に利用してもらう機会を提供できるように、ということで今回さまざまな意見いただいているので、積極的に施策の検討やPRに取り組んでいきたいと思っている。第1回検討会で、幼稚園の魅力の向上ということでPRの話があり、区立幼稚園で始めたインスタグラムについてお話しした。入園の検討段階の保護者の方や在園児の保護者を対象と考えていたが、検討会の中で、子どもが生まれる前や生まれた後も

C 委員	早い段階でのPRが重要というご意見をいただいて、まさにその通りだと感じている。委員の皆様からさまざまな意見を通じてアイデアをいただいたと思っているので、ぜひ生かしていきたいと考えている。 より良い幼稚園教育の今後ということで、この検討会が開催されたと理解をしている。そこでまず報告書1ページいちばん下だが、「検討会において効果的かつ具体的な幼稚園教育振興の取組を、中長期的な視点から検討を進めてきました」という部分、中期的というと5年以上先、長期的というと10年20年先になると普通考える。こういう表現でいいとは思いますが、私立幼稚園としても、教育委員会の皆さんと協力してできることを、より良い幼稚園教育を作り上げていくために短期的な改善ということも考えていきたいと考えている。ただこの報告書の作り方としてそういう作り方になっているということをまず確認したい。私は第4回の会議を欠席していて報告書の原案が示された場にはいないのでちょっと違うことを言ってしまうかもしれないことを了承いただきたい。3ページ(1)検討内容のところだが、「現代的諸課題に応じて検討すべき事項とされた項目を基本とし」という部分、私は違うと理解している。第2回の議事録を確認してほしいし、それを基本としてこの会議で議論をしたという覚えは全くないのでこの表現はおかしいと思う。その下にアイウエオとあるが、アとウについては検討会の場でも港区の課題ではないと明確に申し上げた。イについては当然いつでも大切なことであり、オについては広くその後も意見を展開してきた事柄と理解している。従ってまず現代的諸課題に応じて検討すべき事項という部分は削除していただきたい。次に(2)ところ過去4回の会議でどんなことをやったかということが書いてあるが、第2回のところで幼児教育の基本的な考え方、これを十分に理解していこうということが確認された。そして幼稚園教育の振興に向けた意見の共有をし、教員の確保、配置の充実、幼児教育の原則、具体的に言うとは学校教育法第22条に掲げられる目標や23条、幼稚園教育要領に掲げられている幼稚園教育の原則を踏まえていくということを共有したと理解している。第3回のところで教育課程外における教育活動ということが出ているが、いくつかの異議、議論がなされたことは承知しているが、この報告書の後ろの方でも両論併記のような形で書いてある。あくまでも子どもの最善の利益の観点からどうするのか、という視点で考えていけばいいことだろうと思っている。4ページ(1)の総論の部分の2行目、「長い歴史の中で培われ充実した幼児教育・保育が提供されている」という表現で結構だが、幼児教育・保育と並列して表現しているのはなぜかお聞きしたい。学校教育法第22条では保育という言葉を使っており、そこでは教育という言葉を使っていない。だけどあえてそこに教育と保育を重ねたということだろうと思う。ただ新制度が発足して以降、保育という言葉は、この保育所における保育だという理解が一般的になっているが、そうではなく学校教育法22条にある保育だという確認をしていただきたい。総論のいちばん最後の部分、「利便性の向上」という言い方は私はちょっと腑に落ちないので削除されるのが適当だろうと思う。その下に「具体的な取組の提案例」というのがあるが、もしかするとこの部分は非常に重要なことになるのかなというふうに思う。これはいろいろデータを羅列したのみということであればこれで構わないが、これを今後の具体的な取組の例として掲げている意図はあるのか。例えば、「園庭の自然環境をより豊かにする」というのは4番目に挙げられているが、2番目ぐらいに持ち上げなきゃいけ
------	--

ないはず。それから区立幼稚園の弁当配送の実施ということについては話を聞いたが、それを無償化するという話は私は少なくとも聞いた覚えがなく、こんな議論はしてないはずだと思う。それからその下にある個別意見の「イ 幼稚園及び幼児教育のあるべき方向性」のいちばん最初にある記載、これが大切なことだろうと思っている。5 ページの 2 つ目の部分「教育はサービスだけではない」という表現はよくない。学校教育の初めの一歩という書き方をするのがいちばんいいと思うが、どうしてもサービスというのを使いたいなら「教育はサービスではない」と書くべき。その 2 つ下の部分、「私立幼稚園では宗教的な感情を育てることもしており」とあるが、宗教教育ではなく、宗教的感情を育むという表現なら公私立に関係なく学校教育の中で取り組むべきことなので、私立幼稚園に限定した表現とするべきではない。その下にすぐ弁当無償化等の負担軽減や利便性向上という部分、それと、その 2 つ下に、保護者アンケートの結果のみで望ましい姿を考えるのではなくという表現がある。これは相反する考えを並べたものと思っている。いろいろな意見が出たという意味ではこれで結構だと思うが、ここまで相反しちゃうと、どちらがという話になり、区としてはどう考えているのかということにも繋がりがかねない。ちょっと表現を考えていただきたい。下から 3 番目部分、「保護者の悩んでいることや欲している情報などを積極的に把握していきたい」ではなくて、これはしていくべきと思う。それからいちばん下の項目公私立幼稚園が相互に交流できる行事とあるが、欠席した日に出たのかもしれないが、私は聞いていないので削除でいいと思う。6 ページ (2) 「また、幼稚園が実践している幼児教育を他の教育・保育施設に還元していくことも役割の一つ」とあるが、どういう意味なのか。何となくはわかるが双方向ではないか。幼稚園教育が他の保育施設に影響を及ぼすということは大切なことだが、他方保育施設の営みを幼稚園が受け入れていくことも大切なこと。双方向の表現にしなければいけないと思う。そのすぐ下のこども誰でも通園制度の部分だが、私立幼稚園はよくわかってないという書き方になっているが、区立幼稚園はわかっているのか。私立幼稚園への丁寧な制度説明をしていただくことが大事だと思う。その下の具体的な取組の提案例の 3 番目、「幼稚園で培った幼児教育のノウハウの他施設への還元」というのは、双方向に直して記載するならいいが、表現を変えられないなら削除すべき。いちばん下「幼稚園としての質を担保した上での、こども誰でも通園制度の実施検討」だが、こういう言い方をするということは来年度はやらないという意味になるので一応読み上げた。その下の個別意見の 4 つ目、職員体制が課題になるとあるが、教職員数の不足が課題という意見もとても強く出た。それから、教員の確保が難しくなっているという意見はほとんど全ての参加者から出た意見であり、港区の幼稚園問題を考える上で最も重要な課題だと思われる。7 ページのイの部分、幼稚園における幼児教育の他施設への展開については先ほど言ったとおりで、双方向で書き直しすることが必要だと思う。ウの部分「保育室に余裕がある幼稚園」とあるが、保育室に余裕がないとできない制度なのか。これ何もわかってないので、こういう言い方でいいのかどうか。仮に保育室に余裕がなくても、教育課程の終了後の実施でも考えられるのではと思っている。8 ページ、教育課程外教育活動の具体的取組の提案例の部分の最初の項目、「預かり保育の時間等の拡大」ということではなく、あり方を検討するという程度が合意事項であったと理解をしている。下から 2 番目、「預かる時間、教育課程外教育活動の時間の限度が整理」というのを、限度を整理すべき、と記載するのがよいと思う。いちばん下の

項目、「預かり保育の質を確保するためにも幼稚園の教員が保育を担当」するのが良い、と書くべきだと思う。8 ページのいちばん下、個別意見の事業拡大という部分は、私は削除するのが適切であろうと思う。10 ページのいちばん下、区立幼稚園の預かり保育についてキャンセル待ちというのは、どういう仕組みになっているのかわからないが、キャンセル待ちしなくても受けられるようにする工夫は十分できるのではと思う。11 ページ (4) 教員の確保が最大の課題であると考えている。具体的取組の提案例の 2 番目、保育士の例を参考とした教員確保のための補助の創設というのはわかるが、こういう表現は適切ではないと思う。幼稚園教育は幼稚園教育の場としての教員確保の施策が必要。3 番目の部分、「区立幼稚園の研究発表会の対象拡大」とあるが、公私立でそれぞれ研究活動をしている。その成果の共有を通して交流するということに異論はないが、この記載で何が言いたいのかがよくわからない。個別意見の上から 4 番目の部分、「幼稚園は 1 学級 35 人が学級編制の基準となっており、そこに教員 1 名では、園児数に対して教員が不足する」とあるが、これは何か間違いではないか。これは必要ない表現じゃないだろうか。これでは意味が通じない。13 ページの具体的取組の提案例の部分、「幼稚園と保育園の手続きの一本化」というのはおかしい。こんなことをできるはずがないので、これも削除すべき。個別意見の下から 2 番目の手続き一本化の部分も削除すべきと思う。14 ページ (6) その他の 3 行目、インターナショナルスクールへの就学者という表現は間違っている。就学というのは、学校に入るという意味。インターナショナルスクールは学校ではないので、就学という言葉を使うのはおかしい。その下の行、「英語教育のような勉強の側面だけではない」とあるが、この表現だと英語教育など勉強の側面は非常に大事だという意味が込められてしまう。そうではなくて、「勉強の側面ではない」という表現にすべき。個別意見のイの部分、就学者という言葉や最初の項目 3 行目、側面「だけ」の 2 文字を削除。下から 2 つ目の項目、私が発言したことだと思うが、私が言いたかったことは例えば西町インターナショナルスクールなど 60 年 70 年という長い歴史を持ったしっかりとした基礎のあるインターナショナルスクールであるという意味で、そこでの教育がいわゆる学校教育として立派なものだと言っているわけではない。「立派な教育をしている」という部分は「長い歴史を有する」という表現に書き換えていただきたい。16 ページのまとめの部分、最後の段落で「今後、検討会で出された意見も踏まえ」ではなく、「意見を踏まえ」とすべき。「子どもの幸福を第一に」でいいが、会議で出た議論としては、子どもの最善の利益になると思う。下から 3 行目「区の幼稚園教育が」とあるが、区立幼稚園という意味じゃないのであれば、「港区の幼稚園教育が」の方がいいと思う。

D 委員

私もこの会議に参加して、皆さんの意見から学ばせていただいたことをとても良かったと思っている。自分の発言については、何か中途半端で十分なことを言えなかったという思いがあり、本日限られた時間でお伝えするために資料を準備した。長年幼児教育に関わってきた立場として、これは何たることだと感じているのだが、文科省が昨年発表した子どもの状況に関する 3 つのグラフを資料に記載している。1 つ目は不登校の割合の推移。数が増えていることについていろいろな教育者の中で考え方があり、必ずしも学校に通えなくても、フリースクールなどの別の居場所もできてきているので、それはそれでいいのではという意見もあるところ。しかし 2 つ目以降同じ

ような推移とたどるグラフを記載しているが、2つ目のグラフはいじめの認知件数、3つ目のグラフは校内での暴力発生件数で、いずれも増加している。この10年間で何が起きているか、これらグラフを見れば明らか。今の子どもたちの中にとんでもないことが起きている。その原因は何か、幼児教育をやっている我々の立場から見ると、やはり幼児教育の質の低下があると考えられる。それを何とか変えていかなきゃいけないというのが今の日本全体の課題なのではと思っている。港区は、それができる環境にあるのに、全体に合わせる必要が全くないだろう、というのがいちばん言いたかったこと。港区は港区としての幼児教育、幼稚園のあり方を貫くべきで、その中心はやはり家庭でのコミュニケーション。家庭での子どものアタッチメントの時間を増やすためのサポートをしていくことがいちばん子どもの幸せ、あるいは家庭の幸せになっていく、そういう幼稚園教育をしていこう、という考えでいる。保育園は保育園で、認定こども園は認定こども園でやるべきことをやればいい。それはこれからの日本の課題だと思っているが、港区にある幼稚園としてできることをやる、それを振興していくことが、私たちが今考えるべきこと。私がいちばん言いたいことはその部分で、あとは資料をよく読んでいただければと思う。

E 委員

幼稚園の魅力、役割を改めて考える機会を与えていただいたことにすごく感謝している。報告書について私は委員として参加しており記載内容はわかるが、例えば参加していないほかの公私立幼稚園の園長先生などがご覧になったときに、わかりやすく、また誤解がないように書いていただけるとありがたい。D委員のお話しにあった幼児教育で大事なこと、できることについて、9月に行った入園説明会のときに必ず話しているのは、幼稚園というのは保護者とともに子どもを育てていく場所であるということ。ぜひ一緒に子どもたちを育ててほしい。私たち教員も子どもたちや保護者に育てられている。保護者の皆さんもきっと子どもたちに育てられたり気がついたりすることもたくさんあると思うので、この三者がみんなで協力して成長できるような場でありたい、ということをいつも伝えている。今後も幼稚園がそのような場であり続けてくれるといいと思っている。

F 委員

報告書にも記載があるが、保護者の委員の方からも、幼児教育、そしてその中で港区の幼稚園の教育の魅力についてたくさんお話しいただいて、本当に嬉しいしありがたいという気持ちで聞かせていただいていた。幼稚園の教員はやはり子どもたちのために、そしてその後ろにいらっしゃる保護者のために、幼児期をどのように充実し、幸せな時間を送れるか、そして成長に繋がられるかということを、日々本当に真摯に取り組んでいる。そういった幼児教育、幼稚園の教育をより多くの人に受けてもらいたいと保護者の方々に言っていただけだが、とても嬉しいと感じている。そして報告書の中にもそれがしっかりと記載されたということは、本当に現場で仕事をしている園長そして教員たちの励みになると思った。この報告書の中にもさまざまこれまでお話に出てきたことが記載されているが、C委員の方からもあったとおり、皆様に言っていたことがその表現で伝わるかどうか、言葉の使い方や表現方法も含めて今一度見直していただけるといいのかなと思う。先ほど教育はサービスだけではない、という表現は、教育はサービスではない、という表現がよいということは、私も思っていた。あと、公私立幼稚園が相互に交流できる行事があると良いという部分は、

	子どもたち同士の交流ということも意見があったと思うし、保護者主催の講演会も公私立それぞれにとってもいい取組をしているので相互に参加できる機会があってもいいのではという意見があった。それが報告書に書かれていると私は理解して読んでいたところ。6、7ページのところに、「幼稚園で培った幼児教育のノウハウ」という言葉が出てきたが、ノウハウという言葉だと、私たちが日々取り組んできている幼児教育の質をいかに高くしていくか、子どもたちのために取り組むということを、何かフォローみたいな感じに受け取られてしまわないかと感じ、何か他に良い表現がないかなと思った。そして幼稚園として今までやってきたことはもちろん大切に、教育の質をしっかりと担保しながらやっていくってことはもちろん当たり前に大事なこと。それに加え、これからもたくさんの方に通っていただける幼稚園であるためにはどうしたらいいのか、通っていただいている保護者の皆様にも、より通いやすい幼稚園であるためにはどうしたらいいのかということも考えなくてはならない。時代によって要望もいろいろ変わっていく中で対応していくことも、充実した教育活動を進めるためには大事な部分であると思っている。報告書にあることも誰でも通園制度や、いわゆる預かり保育のことをどうしていくのかは、これからも検討をしていくことと思って読ませていただいた。
L 委員	これまで幼稚園教育、幼児期の教育で何が大切なのかということを議論してきて、各委員の方々もお話をされていた、遊ぶことの大切さを改めて共有できたが、そういうことがこの報告書の中に盛り込まれていて、とてもよかったと思っている。こうした大事なことをわかりやすく発信していくことが重要と思っている。何名かの委員の方から意見があったが、せっかく皆さんが発言したことが、意図しない意味に取られエラーメッセージになってしまうのはよくないと思うので、自分が言った意見がちゃんと反映されていると思えて、なおかつちゃんとここに参加していない方にも正確に伝わるような書き方となるよう、もう一つ精度を上げていく必要があるかなと思っている。この検討会で話されたことを外に出していくわけなので、PRもしっかり積極的にやっていきたいと思っている。先ほどD委員から資料の提供があったが、アタッチメント、愛着形成は大事だと思っているし、第一義的責任者はやはり家庭教育にあるということも、本当にそうだろうと思っている。こどもまんなかということも大事だし、そこを港区の幼稚園教育としてみんなでサポートしていくという方向性はとても共感している。ただ、保護者の幸福感和子どもの幸福度のずれといったところで考えると、親にとって保護者にとっての幸福があり、親が自分も幸せに思えるところからその影響が子どもにも移っていくし影響する。一方的にこちらが幼児教育はこういうふうにしましょうというメッセージを伝えるだけでは、なかなか保護者の方も辛くなってしまうだろうなと思っている。孤立感とかを感じられる保護者の方もいるし、子どものこと、子育ての悩みもたくさん抱えている方もいる。そういったときに園がどれだけサポートできるかを考えたときに、やはり教育課程外の教育活動という部分も、今のままでいいというわけにはいかないというのが正直な実感。区としてできることをどのようにサポートしていくのかは、考えていかなければいけない課題と認識している。
C 委員	今のL委員の発言に概ね同意する。最後の教育課程外の教育活動の部分について、こ

	れを質的に改善することに異論は全くないが、時間的とか日数とか期間とか、そういう充実の仕方は、これ以上にやってはいけないと思っているので、そこはL委員にも、そういうことではないとお考えいただければと思う。
事務局	事務局からいただいたご意見の取り扱いについてご説明したい。報告書についていろいろなお意見いただいたので反映をさせていきたいと思うが、先ほど多数ご指摘いただいた内容については、改めて補足をする。今回この検討会の資料まとめは、公開されている議事録ベースで、実際にご発言があった内容をなるべくエラーメッセージとにならないような形で盛り込んでいったもの。一方で、表現上違った意見になっているのではとか、てにをはの話であるとか、エラーメッセージとなる恐れがある部分については、改めて事務局の方で議事録の内容を確認させていただきながら見直したい。またご本人の発言の部分で、これは修正あるいは削除するべきというようなご発言があったところについてはしっかりと対応させていただきたく。
B委員	この報告書は第4回検討会までの皆さんご発言や考えがコンパクトにバランスよく全てを網羅しようと思って作られているというのが私の印象。その中には意見の違いもあり、意見の違いがあることもちゃんとみんなで受け止めながら議論をしてきたという軌跡というか足跡が残っていると思っている。幼児教育に注目が集まってきており大事だと言われているが、とりわけ幼稚園教育ということに焦点を当てて、実際に何を大事にして、何が行われているか、園の考え方も保護者の方たちや自治体の思いも、具体的な場面も語られた。そのことは本当に大事だと思っているので皆様のお話しのとおり、報告書はとてもコンパクトで綺麗にまとまっているが、これを出すときに具体的な取組や園の様子などそれぞれに語られて心に残ったことが少しわかるような工夫がされていくといいのでは。PRということについては、これらの言葉の後ろ側にある具体的な港区の様子が伝わっていくことが、これからますます大切であり、幼稚園教育が大事だということを港区から発信していく大事な手がかりになると思っている。
A委員	一人ひとりのお話を聞き、4回の会議をこのような形でまとめさせていただいた。正直にお話すると、本当にまとまるものなのかとちょっとハラハラしていたが、委員の皆様が丁寧に確認していただいたことに感謝している。ご指摘いただいたことを真摯に受けとめながら、皆さんからご発言いただいた内容について、反映できる部分とできない部分があると思う。その辺については、正副委員長で預かり、適切な対応をさせていただきたい。 2 その他 全5回の会議を終えるに当たり各委員からひと言ずつコメント。
G委員	幼稚園教育に携わる先生方の本気の気持ちや姿を拝見し、港区でよかった、自分の子育てが港区でできるということが幸せだなとすごく感じた。大変貴重な場に参加させていただいて、大変光栄に思っている。ありがとうございました。

H委員	預かり保育についてC委員からご指摘があったが、やはり保護者の立場から見ると、時間や人数の部分も含め延長するというのは、重要になってくるところではあると思っている。私が産後ケアに関わる中で、上のお子さんが私立幼稚園に通われているご家庭もたくさんある。そういうご家庭は皆さん綱渡り状態で、上の子は私立幼稚園が終わったあとアフタースクールに行かせていることが多い。認可外保育施設などがアフタースクールとして幼児の受入れをしているが、そのまま結局6時とか7時まで預かってもらっているご家庭もある。下の子が生まれて自分が手一杯になり、上の子はそのような形を取るという状況になっている。仕事をしている方はその傾向がより顕著になるので、幼稚園が時間的にもうちょっと預かってくれたら、とか、夏休みももうちょっと預かってくれたら、などと考える家庭は非常に多いと思う。質の担保をちゃんとできる幼稚園の中で、しっかりと時間を延長して預かってもらえる環境があると、利用する保護者の立場からしてみたら、ありがたいと感じるはず。あれこれ考えて綱渡りをし、ベビーシッターを雇い、子どもの移動の道中なども全部やりくりしてなども考えなくて済む。何より子どもたちも通いなれた場所で安心して過ごせるし、いつもの先生たちに見てもらえるので、心の面でもすごく支えになってくると思う。そういった預かり保育の延長は先ほどL委員のお話しにあったとおり、時代に合わせて変化していくことが必要になってくると考えている。
I委員	今回の委員の中で教育や幼稚園のことにに関して明るくない立場でいろいろ発言させていただいたので、皆様に失礼なことを言ってしまったとこもあったのかなと思い、申し訳なかったと思っている。検討会に参加していちばん感じたことは、幼稚園、保育園という言葉は、自分も通っていたし知っていたが、今子どもを育てる親としてちゃんと幼稚園や保育園とは何か、どう違うのかななどを明確に説明できるほどの理解が伴っていないということ。こちらでいろいろな先生方のお話を聞いて、改めてそれを感じ、勉強させていただいた。同じように幼稚園や保育園について、その差についてちゃんと理解してない親は結構いると思う。重ねての発言になってしまうが、そういった親の理解が深まるようPR、周知する機会がもっとあるといい。幼稚園に対する理解や、子どもを育てていくこと、教育全般に関する考え方など、親も学んで成長していくことの大事さがもう少し伝わるのではと思う。いろいろなところで幼稚園の先生方が考えていることなどが伝わる機会が増えていけばいいと感じた。いろいろ勉強させていただいてありがとうございました。
K委員	今回の検討会は保護者の方も参加していただいて生の声をいろいろ聞かせていただき大変感謝している。この検討会の中でさまざまな意見、アイデアをいただいた。そのアイデアを生かして、幼稚園教育の充実も取り組んでいきたいし、迅速にスピード感を持ってできるものはどんどん形にしていきたいと考えている。
C委員	いろいろなお話を聞かせていただいて勉強になった。H委員がおっしゃったようなことは私も重々承知している。そういう家庭がたくさんあるのも承知している。港区ではフルタイムで共働きをしている家庭も結構ある。そういう家庭への対応を幼稚園がしなければいけないという話だと思うが、それはできない相談だとしか言いようがない。制度が違う。はっきり言えば、幼稚園は学校の第一歩。幼稚園の教育と小学校1

	年生の教育とは連続性がある。そこをひっくり返すようなことはできない。また、港区の保育園が良くない状態にあることも承知している。港区として緊急にやらなければいけないことは、95%の保育園に園庭がないという状態を放置しないこと。保育園は園庭を持つという原則があるにも関わらず、港区の保育園は園庭がないのが原則になってしまっている。3～5歳児に対して、幼稚園教育要領に準じた教育を行うというのが保育園の姿。園庭がなかったからそれができない。それを幼稚園でやれと言われても、これはできないこと。やらなければいけないのは、保育園の園庭をしっかりと設けて、保育園に通う3～5歳の子どもに幼稚園教育要領に基づく幼稚園教育に準じた教育ができる状態をちゃんと作ること。それができていないことでいろいろな問題が起こってしまっていると思っている。保護者の方々がいろいろ苦労されている実態というのは私も十分承知している。
E 委員	日々保育や雑務に追われてしまっている毎日だが、このようにいろいろな意見を伺って考える機会というのは本当にありがたいと感じた。特に保護者の方のお話を聞いたことが、私にとっては大きい。普段保護者と話さないということはないが、このような預かり保育のことや、どんなことをお考えなのかをちょっと深掘りするような場面はないので、とてもありがたいお話だったと思っている。公私立幼稚園連絡協議会などで区の方や区立園の園長先生とは定期的にお話しをしているので、この検討会で私にとっていちばん大きかったのは、保護者の委員の方たちとお話しができたことだと思っている。
F 委員	さまざまな立場の方の意見伺うことができて、本当に勉強になる会だったと思っている。会の始まりのときに、先ほどのまとめの3ページに出てきたが、文科省から出された最終報告ということで、今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会が示した5つのことを踏まえて進めていくということが当初事務局から提案された。これは文科省のほうで皆さんで話し合われて、最終報告として出されたものだが、各自治体で受け止めてしっかり進めていくよう、文科省から発信されたものだと思う。それを実際にどのようにしていけばいいか、こうした会議の場でこの最終報告をベースに検討を進めたらどうかと提案してくださった区の姿勢というのはとてもありがたく素晴らしいものと思った。いろいろな課題が幼稚園教育、幼児教育の中であるかと思うが、区民の皆様が本当に一生懸命子育てをされていて、とても大事な幼児期ということに関わらせていただいている立場として、区立幼稚園としてどんなことができるのかということを区の皆様と相談しながら進めていきたい。そして、家庭や仕事の状況、子育てに向き合う状況・心持ちというのも、家庭や保護者1人ひとりで全く一律ではない。それぞれが本当に子育ての時期においても幸せを感じられる子どもとの時間、自分の時間というのがいろいろあるかと思う。時間や日にちで一律に区切れるものではないと思うので、こういったことが受け皿として必要で、各家庭が選んでそれぞれに幸せな子育てをするための選択ができるのか、という部分において選択肢を広げておくことが、とても今求められているのではないかと考えている。もちろん子どもたちのことが大事なので、教育課程の教育は当然にしっかりやっていく、そして教育課程外のいわゆる預かり保育の部分も、どのようにしていけばいいのかを検討して、充実してやっていくことが保護者の幸せにも繋が

	り、それが子どもの幸せにも繋がるということも含めて、総合的に考えていかななくてはならないと考えた。この会に出させていただいて、普段していること、これからどんなことをしていくべきなのということについてとても深く考えることができた。ありがとうございました。
L 委員	先ほどの私の預かり保育に関する発言に対し、そのあとC委員からけん制球のような発言があったように感じたが、決して単に時間を延長するということではなく、もちろんそういったご意見もここでは出ていたが、いちばん核となっているのは質の確保であり、皆様が追求してきたことと思っている。教育課程外のほうが注目されがちだが、注目すべきはやはり教育課程内の部分であって、この部分は公私立幼稚園含め、区内の幼児教育施設においてはハード面でそれぞれ状況があるかとは思いますが、その限られた環境の中でいかに子どもたちの健やかな成長を願いながら支えていくかということが区の支援の方向性と考えている。これからもその内容、そして質についてはしっかり考えていきたいと思っている。この検討会は幼稚園教育の振興という目的だったので幼稚園に焦点当ててお話しをしてきたが、保育園のことも出てきているので私が所管する保幼の連携や小学校も含めての連携の部分は改めて大事だと思っている。ここで議論されている意見を、区立幼稚園の先生方にも伝え、区立幼稚園としての教育の内容の充実を引き続き図っていききたいと改めて思った。
B 委員	皆様本当にありがとうございました。幼稚園教育では「子育て支援」とは言っておらず「子育ての支援」と呼んできた。保護者を支援することは保護者への支援そのものにウエイトがあるのではなく、そのことが子どもの幸せに繋がっていく、そのための子育ての支援というのが、これまでずっと大事にされてきた。そうしたことが改めて、さまざまな方から実感を込めたり大切にしていることとして語られたこと、それが残っていくことはとても意味深いということ、皆様方のお話を聞いて感じた。そして私が大変印象に残っているのが、文科省から出た最終報告の項目をもとにして議論が始まったものの、各論がしっくりこないということで、具体的な取組についてどうするかだけではなく、幼稚園教育をどうするかが大事で、みんなが何を思っているのか率直に話し合いながら総合的に考えて発言してきたこと。何をどうするかだけではなく、何を大事にするのかを皆さんで話し合う場にいられたことを本当に感謝している。それぞれの委員の皆様方の立場があり、背負っているものもあったと思うし、時には勇気を持って発言をされたこともあったかもしれない。その中でそれぞれの方が心を開き、その方の言葉で語られたということが本当に大切なことだったと思う。それぞれの後ろには本当にそれぞれの方の子どもに対する温かな思いや熱い理念、考え方があって、それが語られてみんなで共有できたことが、この会議が持つ大きな意味となったと思う。さまざまな立場の方がいるこうした場に参加できたことに感謝をしたい。振り返ってみると、ここで皆様方がしてきたことは、実はこれからの不確実な時代を切り開いていく子どもたちに必要だと言われている力、そのことを改めて見せていただいたような気がしている。目の前にいろいろなことが起きてくるときに、立場の異なる多様な他者と関わり合いながら、互いの立場や思いも違うけれども、違いがあることも含めて、受け止めたり、出し合ったりして、共通すること、大事にすることを見出していく力が大切だと言われている。そのことを改めて皆様方の姿から感

じ、心に留めている。もう一つは、今、5歳児と1年生の2年間を架け橋期と呼び、発達や学びを繋いでいくことが大切だとされてきている。ここでは、子どもに関わる多様な大人が立場を超えて連携して、子どもの発達や学びをともに考えて繋げていくことが大切であり、これからますます発展していこうとしているところ。この姿も、具体的な大人の姿として心に刻んで、持って帰りたいと思っている。最後になるが、幼稚園教育は幼児期の学校教育。これからはますます保育の質が重要になってくる。今回公私立、そして教員や園の皆様と保護者の方そして私たちも含めて、地域の人でもあるわけで、そういう様々な立場の人が一緒に考えていこうとするこの機会を残して、実現していくことを期待して、それから私も一生懸命やっていきたいと改めて思った。貴重な機会にさせていただいたことを皆様にお礼を申し上げたい。本当にありがとうございました。

A委員

この会の締めくくりとして、これからの幼稚園教育のあり方について少しお話をさせていただきたい。実は私も板橋区で幼稚園をやっていて、その幼稚園も80年以上になる。保育所から始まり幼稚園に切り替えて、学校教育として始めたが、戦後の教育を見ると、今残っている一斉保育と言われるような教え込み方を受けてきた経緯がある。そういう人たちが成長し、日本は世界第2位の国を作った。しかし、文科省の意見を聞いていると成熟した日本において20年後に育つ子どもたちが、国際社会に出て、一人ひとりが日本人としてどのように豊かに過ごしていくのかを1つのビジョンとして考えている。そう考えると、ますます幼稚園教育は重要になっていくだろうと思っている。私の意見ということではなく、国の動向について少しお話しする。まず1点目は皆さん今日こうやって議論をしてくださったこと自体が、方向性が大きく動き始めているという解釈だと思う。C委員のお話しも確かで、私も同感するところがたくさんある。まずは、大きく社会構造が変化してきてしまったということが大きな問題だと思う。昭和22年に制定された当時の学校教育法の第一条を見ると、学校は小学校、中学校、高校学校・・・と原文から言うと書かれており、幼稚園はいちばん最後に及びという形で加えられている。アメリカのGHQの人たちと一緒に議論し日本の学校教育のあり方が作られた経緯がある。幼児教育は小学校教育と異なる指導の特殊性があるが、それが幼稚園教育として大事な側面。幼児の教育というのは、幼児一人ひとりの内面の中に課題があって、その課題を引き出し大きく伸ばしてあげる、そのために教員は何をすべきかが基本となる。そのために指導計画を立てるし、その前に、教育課程立てなくてはならない。それは学校だからこそ立てるもの。社会構造が変わってきている中、幼児教育をずっとやってきた先生方は信念としてやってきているので、ハードルを越えるようなことはやるべきことではない、という思いもよくわかる。ところがこの時代にきて学校教育法の改正が行われた。教育的な意味合いをより強く出すために、学校教育法の第一条の中でも「及び」で加えられる形から、幼稚園、小学校、中学校・・・といちばん最初にくる形となった。そこから幼稚園教育のあり方を大きく考えていかなければならない方向になった。学校というのは単位制であり、時間数や週数も決まっている。学校教育は全て単位で動いているので、1単位45分のような考え方があるが、幼児教育はどこにも記載がない。しかし教育課程があり指導要領、いわゆる幼稚園教育要領もある。そうすると、本来は幼稚園課程を修了して、小学校課程に行くという教育課程で動いていくので、時間数が決められている。

幼稚園は長い間教育課程内の教育時間を1日あたり4時間を標準とするという時間を守ってきた。なぜかという、それ以上は子どもにとって大きな負荷になるからであり、それぞれの幼稚園の実情に合わせて独自性を認めるから大切に育てて欲しいということ。小学校に行くと、先生に対して子どもは適切に回答するだけで、適切に回答できれば、それで評価されていくという構造があるが、今そこは少し手直ししていかなくてはならないということになり、幼児期と小学校との架け橋期においては子どもの主体性を重要視して、学校教育を展開することとなっている。そうした中で幼児教育をどのように捉えて実施していくか、C委員から発言のあったように、自然環境があって、その中で子どもが自分で興味関心を持ち、好奇心に抱かれながら、友達に自分で思ったことやひらめきを伝え合う。そういう中に、教育としての意味を持たせていく。それが小学校行ったときに、経験として生かされて、自信を持って先へ進めるようになっていく、というのが幼児教育。園庭のない保育所は一生懸命頑張っただけで子どもを連れて公園に行くが本当は公園だけでは十分ではない。でも、それしかないし、行くところがないのが実情。その中で、行政も幼稚園も保育園も、子どもたちにどうやって空間を与えて、将来自立させて自分の考えで行動できる人間として育てていくか、自分から進んでいく力を育てていくかそれぞれ考えていかなくてはならない。幼稚園教育が今後どうなっていくかというのは、私から見ても不透明。今の幼稚園教育の質を担保するために行政がどのように支援するのか、それとも保育園化していくのかというのは私もわからないが、私自身も実はC委員の考えていることと同じ考えは正直持っている。子どもの内面にあるものを大切にしていくことを教育として続けていきたい。自分の園での話になるが、3歳の男の子が園庭になった柿を自分で収穫して、「園長これあげる」と私に持ってきてくれたとき、ちゃんと洗った柿の葉っぱに乗せられていた。人に何かを差し出すときにお皿に乗せて出すものだとすることを、3歳の子が認識しているということで、こうした概念を育てていくことが幼稚園教育であると感じ、全員の先生に共有をした。D委員から提供されたデータを見たときに今後の課題というものも感じたが、この会に参加された皆様からは本当にたくさんの意見をしっかりと出していただいた。子どもたちに対してどのように豊かな教育を提供していくかということは、今回議論された資料をもとに、全国の幼稚園あるは自治体にPRしていただけたらありがたい。皆様と一緒にこの検討会で学ばせていただいた。私も改めて幼稚園教育の重要性と、今後の教育をどうしていくかということ、悩みの種として持って帰りたいと思う。本当にありがとうございました。事務局から最後に今後について説明いただきたい。

事務局

先ほど委員からもお話のあったとおり、検討会報告書についていただいた皆様からのご意見については、正副委員長、事務局で最終調整をさせていただく。調整がまとまったら、最終的な完成版を委員の皆様にも共有させていただく。

A委員

本日予定している議題は以上となる。最後の委員の皆様にお礼を申し上げ、この会を閉じさせていただきたい。ありがとうございました。